

「より深い相互の理解」のために — 万国博開催に思う —

大和文華館々長 矢代幸雄

私がボストン郊外の有名なハーバード大学へ講義に行った時は、満州事変（昭和6年）の起きた翌年のことでした。元来ボストンを中心とするニューイングランド地方は親日家の多いところでしたが、一変して非常に険悪となり、まるで敵国にいるような感じがしました。ハーバード大学のロウエル総長は国際政治や外交問題に深い関心を持ち、日本の政情にもよく通じておられた方でしたが、私が行く少し前に同氏は大演説を行って、満州事変は実に不正当である。吾々はこの際日本を経済ボイコットすべし、という激しい提唱をされ、その事は日本の新聞にも大きく伝わりました。その様な事で、当時は会合などへ行っても、日本のやり方を色々非難されたり、議論を仕かけられたりして、非常に不愉快でしたから、私はあまり外へも行きませんでした。丁度その時、ボストン美術館で新収品披露会が開かれました。ボストン美術館は、ボストン市民が募金して建てた市民の誇りの美術館ですが、この展覧はその年度に購入した名品を紹介する一年に一度の特別展覧会で、いわば市の御祭のようになっていて、美術に興味のある有力な市民は喜んでこれを見に行くのです。その年の特別展は丁度そのように日本に対する感情の極めて悪化した時に開かれたのですが、その陳列品の中に、新たに日本から買われて行った日本絵巻物の名品、酒井伯爵旧蔵の吉備大臣入唐絵巻があり、それが初めてボストンで陳列されたのでした。私はそれを聞いて見に行きたいと思ったけれど、当時人の大勢いる所に行くのは不愉快に堪えないので、行こうか、行くまいか、と迷いましたが、結局、様子を見に出かけました。ボストン美術館の新陳列の大広間へ、後ろの方からそろそろ行くと、その絵巻物は八十尺余りの長い作品ですから、遠くからでも陳列してある場所がすぐ解る。あれ程日本の評判が悪い際であるから、日本美術なんか見る人もあるまい、と予想して行くと、意外にも大勢人だかりがしている。そろそろ近付いて行って、人々は何と知っているかと聞き耳を立てて見ると、色調が実にすばらしい、とか、人物が如何にもよく躍動しているように描けている、とか、今度ボストンが買った物の中でこれが一番名品だ、などと云って賞めあっている。その当時、久しい間、私は日本に対して、賞めたりあるいは親しみを感じているようなよい言葉を、聞いたことが無い。私はこれを聞いて、胸が一ぱいになりました。敵国のような空気の中に可憐なる娘のようなこの一つの日本美術の名品が、はるばる祖国から買われて行って、黙ってそこ



に横たわっているだけで、日本の為に友達を作りつつある。当時日本の立場を説明する演説会やパンフレットなどは放っておかれるか、反感を募らせるばかりであった際に、美の威厳のみは、政治を離れ、人種の差別を越え、人間の心より発し心に徹するものを以て周囲の人々を感化していた。それで、私は久しぶりに晴れやかな気持ちになり、その絵巻物の陳列場所に近づいて行くと、友人が私を見付けて説明してくれという、それからは、私の方こそよい気になって、毎日ボストン美術館に出かけて行って、その絵巻の近所に陣取り、その説明役を買って出たりしました。この時に私が目撃して、つくづく感じさせられた事は、美術の人心に及ぼす影響であります。外交問題や政治問題よりもっと深い地層に於て

世界の人心は互いに共鳴し、同感し、親和するところがある。高級なる文化や美術は、利害を離れ、国境を越えて、この様に人間の心と心が深く相通じ堅く相結ばれるならば、それは国際間にも、友情となり、相互信頼となって、国交にも自らよい影響を与える。そういう深い意味をもつ事を、私は痛感させられたのであります。

いま、日本は万国博に夢中のように、新しい構想に基づく美術館での大展覧会も企画されています、私は新聞などで、そのニュースを目にする度に、四十年前のこの様な出来事を思い出し、今度の万国博覧会が、いまだに戦いの絶えぬ不穏な国際間に、「より深い相互の理解」をもたらし、世界平和とその発展の実現のための一助とならん事を願って止みません。

季刊 美のたより No.13

昭和45年 3月1日

発行 大和文華館